

令和6年度 全学共通科目に関する調査（学生対象）

調査概要 全学共通科目のうち「社会人基礎力入門」、「初年次ゼミⅠ」、「初年次ゼミ」、「自己と社会・地域論」、「初年次ゼミⅡ」の5科目について、学生を対象としたアンケート調査を実施した。調査では、授業内容に関する5項目について5段階の自己評価で理解度を測るとともに、講義前後の変化について2択で測った。また、学生自身がより修得したい、もしくは修得する必要があると思う内容について自由記述を求めた。調査にはマナビコースのアンケート機能を用いた。

調査時期 前期調査：2024年7月（15回目授業）

後期調査：2025年1月（15回目授業）

調査対象 大学1年生：「社会人基礎力入門」「初年次ゼミⅠ」「自己と社会・地域論」「初年次ゼミⅡ」

短期大学部1年生：「社会人基礎力入門」「初年次ゼミ」「自己と社会・地域論」

※ 留学生は「社会人基礎力入門」「自己と社会・地域論」を2年次に受講するため、対象は短期大学部2年生となる。

調査内容 科目ごとにシラバスの到達目標をまとめた5項目の設問を設定し、「全くできていない」、「あまりできていない」、「どちらともいえない」、「ある程度できている」、「よくできている」の5段階で回答を求めた。また教育前後の変化を把握するため、前述の理解度について「講義前から変わらない」、「講義前より力がついた」のどちらかで選択回答を求めた。

社会人基礎力入門

1. 社会人に必要な基礎学力である「読む・書く・聞く」力の重要性を理解している
2. 正しい敬語を使うことができる
3. 社会人マナーについて理解している
4. 社会人基礎力(前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力)の重要性を理解している
5. 情報社会に必要なリテラシーを身につけている

初年次ゼミⅠ

1. 大学での自発的な学修態度を身につけている
2. 図書館やインターネットを利用して情報を収集することができる
3. 収集した情報をルールにのっとって引用することができる

4. 根拠に基づき自分の考えを主張することができる
5. 基本的な構成に沿って、体裁を整えたレポートを書くことができる

初年次ゼミ

1. 大学での自発的な学修態度を身につけている
2. 図書館やインターネットを利用して情報を収集することができる
3. 基本的な構成に沿ったレポートを書くことができる
4. プレゼンテーションのための資料(スライド、ハンドアウトなど)を作成できる
5. 相手に伝わるようにプレゼンテーションすることができる

自己と社会・地域論

1. 自己理解、他者理解を深め、円滑な人間関係を築くことができる
2. ストレス・コントロールの方法を理解し、実践できる
3. 徳島県の地場産業や企業の特徴を説明することができる
4. 地域貢献活動の目的や必要性について、自分の考えを述べることができる
5. 積極的に意思を表明し、グループワークに貢献できる

初年次ゼミⅡ

1. 自分の考えを根拠に基づいて伝えることができる
2. プレゼンテーションのための効果的な資料(スライド、ハンドアウトなど)を作成できる
3. 相手に伝わるようにプレゼンテーションすることができる
4. グループの中で共通理解が得られるようにディスカッションすることができる
5. ディベートのテーマについて論理的に考え、意見を組み立てることができる

全科目

自由記述「科目の内容であなた自身もっと学びたい、また時間をかけて学ぶ必要があると思う内容を書いてください」

調査結果

各科目のアンケート回答者数、自由記述回答者数は下記の通りであった。

科目名	回答者数 (大学)	回答者数 (短期大学部)	回答者数 (全体)	回答者数 (自由記述)
社会人基礎力入門	373	101	474	319
初年次ゼミⅠ	358	－	358	218
初年次ゼミ	－	111	111	57

自己と社会・地域論	351	27	378	210
初年次ゼミⅡ	405	－	405	271

結果の概要

1. 学修内容の理解度

【社会人基礎力入門】

設問5項目全てにおいて「よくできている」「ある程度できている」を合わせた肯定的回答が8割以上を占めていた。特に、社会人に必要な基礎学力「読む・書く・聞く」や社会人基礎力〈前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力〉の重要性、社会人マナーの理解については、9割以上の学生が肯定的に回答した。否定的回答は、5項目全てにおいて全体の3%未満であり、また、8割以上が「講義前より力がついた」と回答しており、概ね学修内容を理解・修得しているといえる。

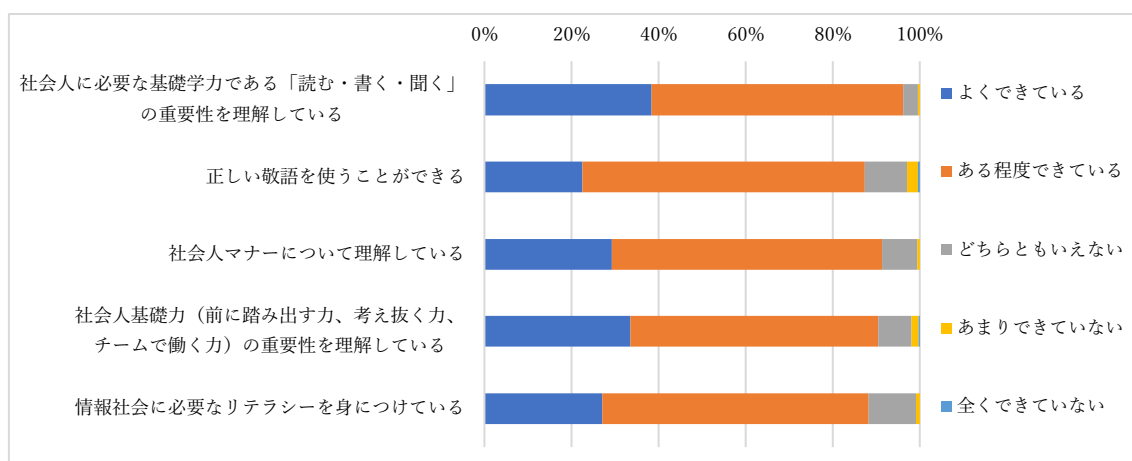


図. 社会人基礎力入門の学修内容の理解度

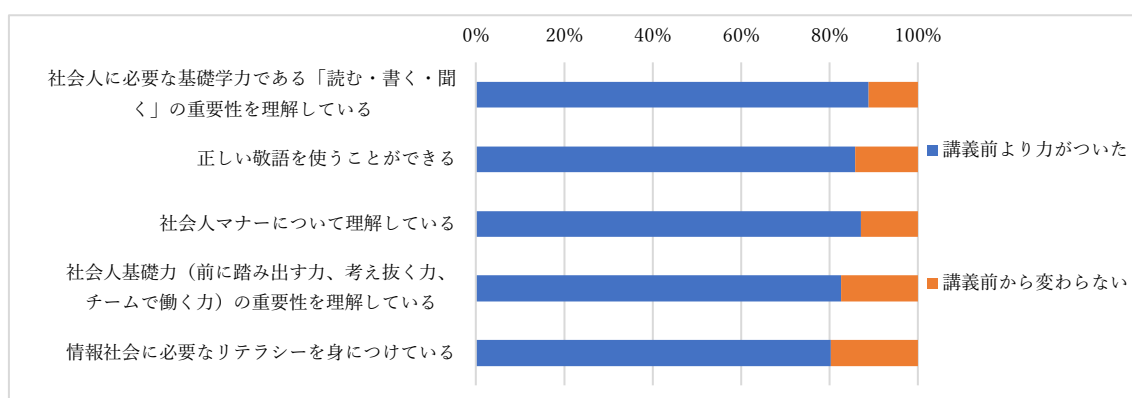


図. 社会人基礎力入門の講義前後の変化

【初年次ゼミⅠ】

肯定的回答が多いものの、5項目の設問のうち〈根拠に基づき自分の考えを主張することができる〉と〈基本的な構成に沿って、体裁を整えたレポートを書くことができる〉については、「どちらともいえない」及び否定的な回答が2割程度を占めていた。〈根拠に基づき自分の考えを主張することができる〉については、自身の力が「講義前から変わらない」と回答した学生が25%と多かった。初年次ゼミⅠはレポートの書き方の基本を初めて学ぶ授業として位置づけられている。本授業を契機に、継続的な実践を重ねることによって理解度をさらに高めていく必要がある。

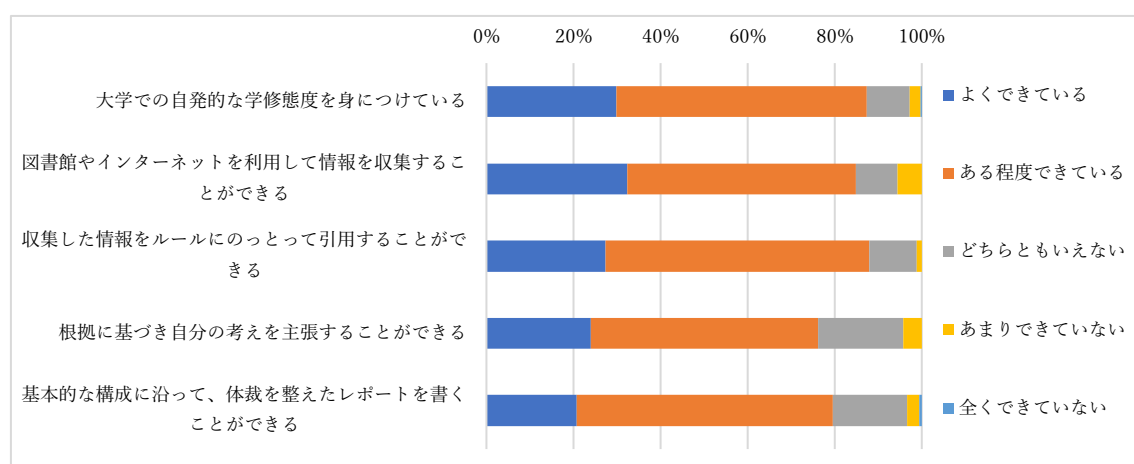


図. 初年次ゼミⅠの学修内容の理解度

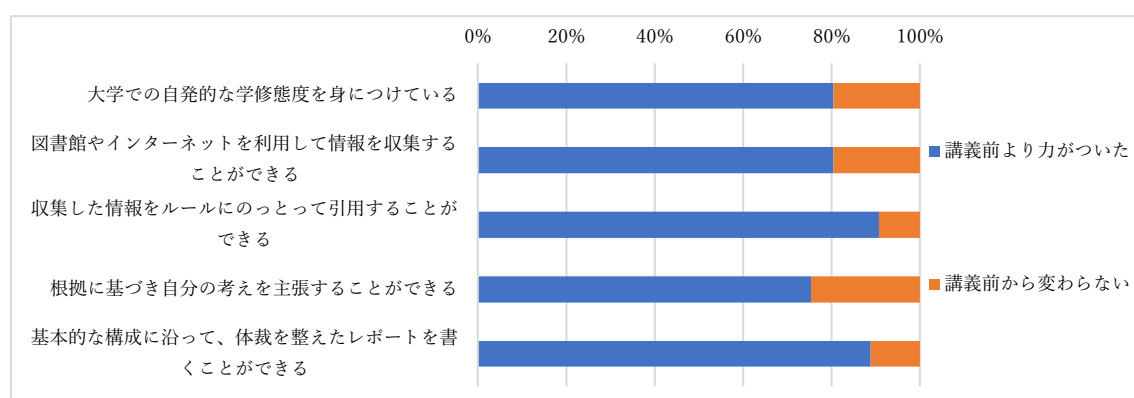
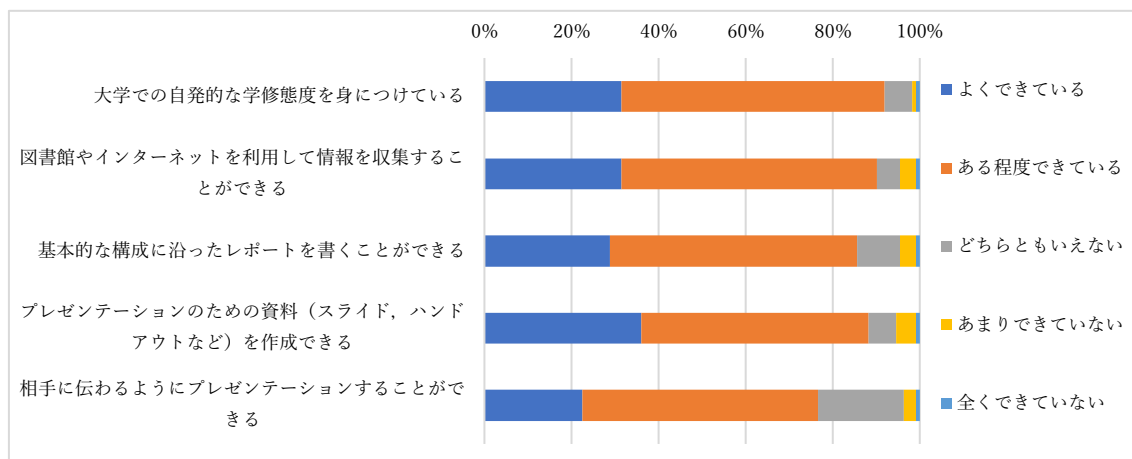


図. 初年次ゼミⅠの講義前後の変化

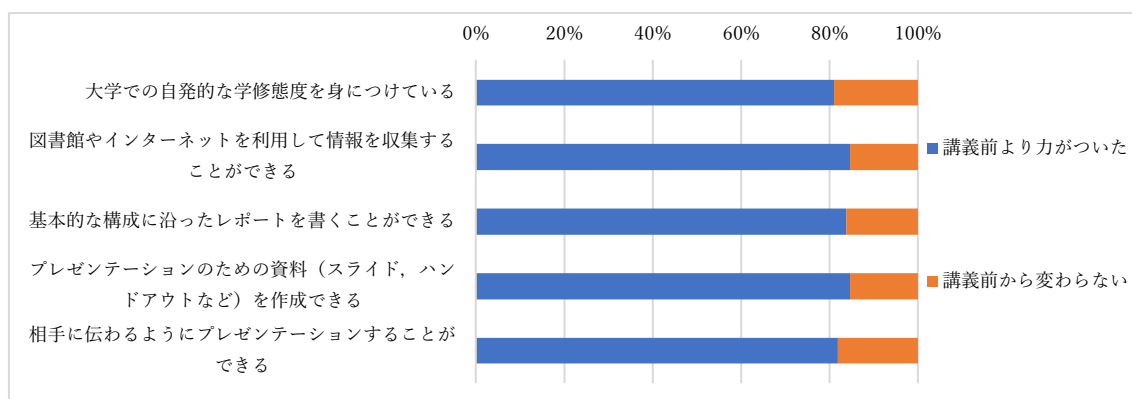
【初年次ゼミ】

肯定的回答が多く、8割程度の者は「講義前より力がついた」と回答している。しかし、後半の授業内容である〈相手に伝わるようにプレゼンテーションすることができる〉では、「どちらともいえない」及び否定的な回答が全体の23%を占めており、苦手を感じる学生

が多いことが伺えた。短期大学部には、留学生を含むバックグラウンドの異なる学生が在籍しており、難易度の設定が課題である。



図．初年次ゼミの学修内容の理解度



図．初年次ゼミの講義前後の変化

【自己と社会・地域論】

前半の「自己論」では8割以上、後半の「社会・地域論」では7割以上が肯定的回答をしていた。ただし、講義前後の変化については、他の授業に比べて「講義前から変わらない」の割合が高い傾向が見られた。ワークを多く取り入れる授業内容であるものの、さらに修得の実感を高める工夫が必要である。

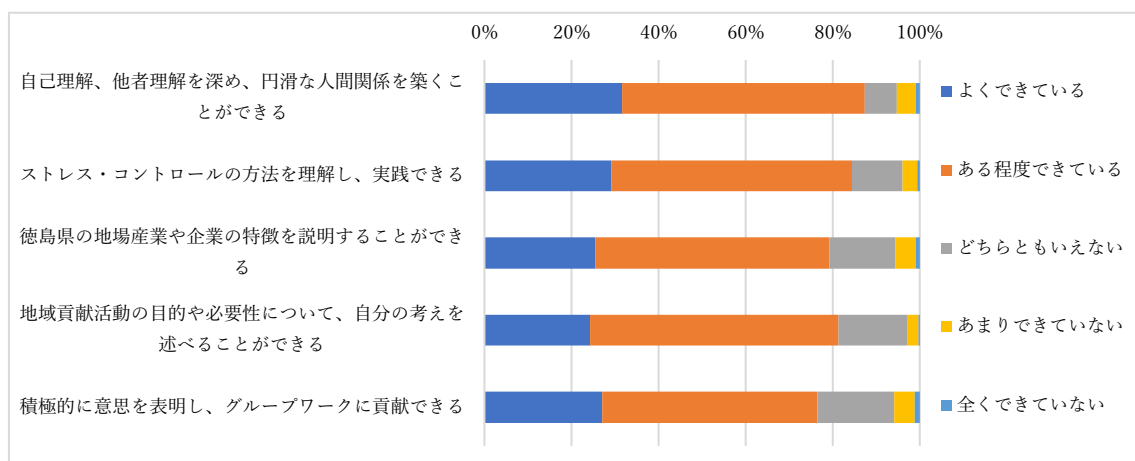


図. 自己と社会・地域論の学修内容の理解度

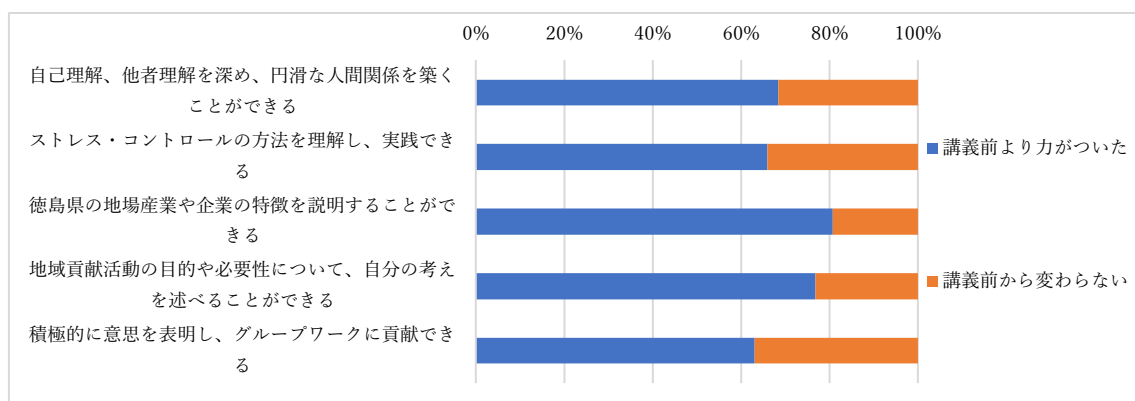
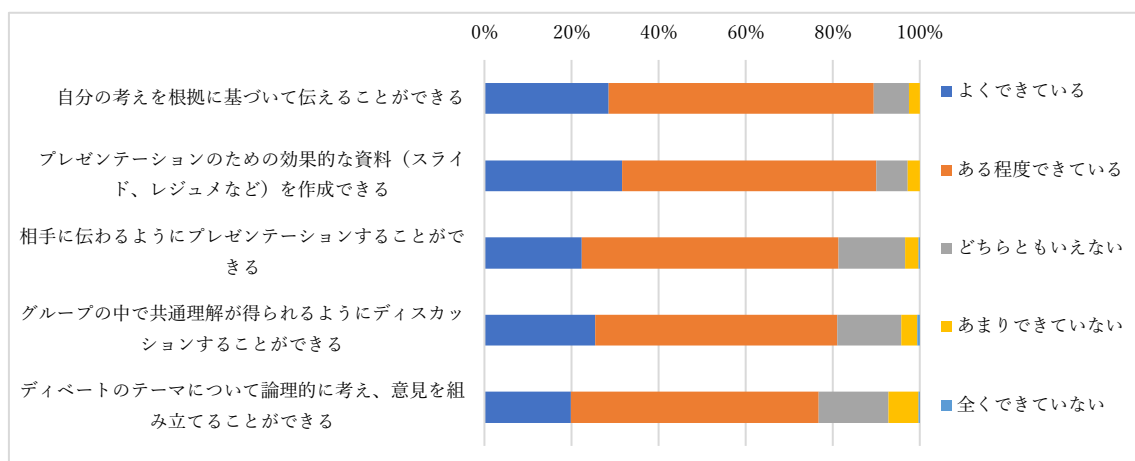


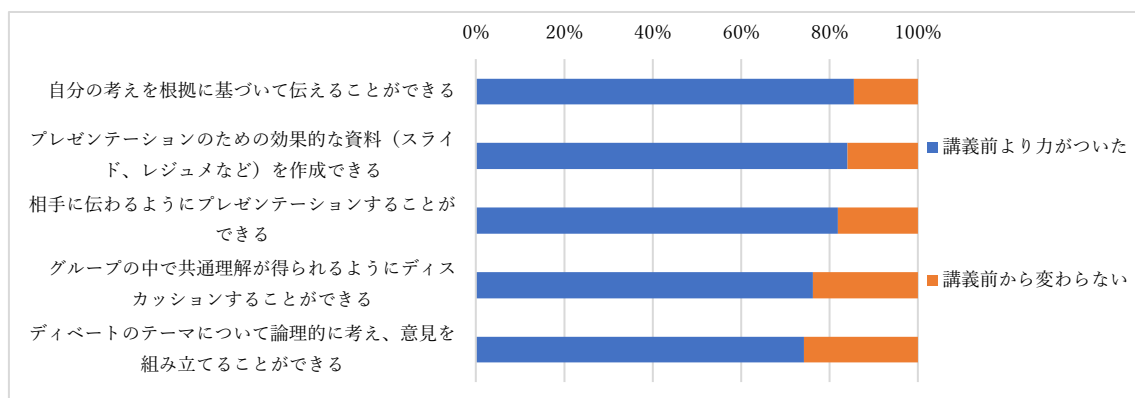
図. 自己と社会・地域論の講義前後の変化

【初年次ゼミⅡ】

5 項目の設問のうち〈自分の考えを根拠に基づいて伝えることができる〉と〈プレゼンテーションの為の効果的な資料（スライド、ハンドアウトなど）を作成できる〉では、肯定的回答の割合がともに約 9 割を占めていた。一方で、ディベートの実践に関する項目では、「どちらともいえない」及び否定的回答が 23%を占め、苦手を感じる学生が比較的多いことが伺えた。初年次ゼミⅠと同様に、本授業を契機に、継続的な実践を重ねることによって修得をさらに高めていく必要がある。



図．初年次ゼミⅡの学修内容の理解度



図．初年次ゼミⅡの講義前後の変化

2. 自由記述

【社会人基礎力入門】

授業を通じて、敬語やビジネスマナー、電話対応、礼儀作法など社会に出る際に必要な知識や社会常識の重要性を再確認していた。最も多く出現した語は「敬語」で、次いで多かったのが「マナー」であった。敬語とビジネスマナーの修得が職場での円滑なコミュニケーションに寄与することを理解しており、さらに学びと実践を深めていく必要性を感じていた。

【初年次ゼミⅠ】

多くの学生が「レポート」や「論文」の書き方についての理解をさらに深めたいという意欲を示していた。特に、卒業論文に向けた準備として、文章構成力や表現力、引用や文献の扱いなど情報収集能力の向上に対する強い関心を持っていた。

【初年次ゼミⅡ】

レポート作成や発表の質を向上させるための具体的なスキルをさらに身に付けたいとい

う学生が多かった。そのための情報収集やリテラシーの学びを重要視していた。さらに、社会問題に対する理解を深めること、プレゼンテーションの実践機会を増やすことを希望しており、プレゼンテーションスキルを磨くことに強い意欲を示していた。

【自己と社会・地域論】

前半の自己論に関する内容としては、「ストレス・コントロール」が最も多く出現した語で、ストレス管理やコントロール方法に関する学びを求めている。出現数としては後半の「社会・地域論」の方が多かった。学生は地域経済と企業へ強い関心を持っており、地域経済や企業の社会的役割についての理解を深めたいと感じていた。また、グループワークを通じて徳島に関する知識を深めたいという強い意欲も表れていた。

【初年次ゼミⅡ】

最も多く出現した語は「プレゼンテーション」で、学生は効果的なパワーポイントの作成スキルや聞き手に対して説得力のあるようなプレゼンテーションの仕方の修得を求めている。次に出現頻度が高かった語は「ディベート」で、自分の意見を相手に分かりやすく伝える能力をもっと身に付ける必要があると考える学生が多かった。さらに、論文作成のスキル修得を上げている学生もいた。レポートや論文の書き方は前期の「初年次ゼミⅠ」で学ぶ項目であるが、「初年次ゼミⅡ」でも引き続き学ぶ機会を設けて欲しいと考えた学生も一定数いたようである。